

平成30年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

平成30年9月 備前市教育委員会学校教育課

目的：◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

実施日：平成30年4月17日（火）

実施校：市内小学校10校 第6学年児童 236人
市内中学校 5校 第3学年生徒 268人

調査：◇教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
・主として「知識」に関する問題（A）
・主として「活用」に関する問題（B）
◇学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

1 学力調査結果の分析

<小学校>

【国語】

A「知識」

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題など、一部正答率が全国を上回る正答率が見られる問題もあったが、全体としてはやや全国を下回る正答率であり、課題としては次のような点があげられる。

①慣用句や敬語の用法等

B「活用」

全体的にやや全国を下回る正答率であった。

その中でも、特に大きな課題としては次のような点があげられる。

②計画的に話し合うために、司会の役割についてとらえる

③目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくむ

①のつまずきを解消するためには、慣用句や敬語等を意味から理解したりすることや、生活場面において積極的に使用していく経験が必要である。

また、②のつまずき解消のためには、話し合う力を「言葉を用いる技術」として学習の中培っていくことが必要である。

さらに、③のつまずきを解消するために、文章をその構成や表現の意図に注目しながら読む経験や、それに対し、立場を明らかにしたうえで、評価しながら読むという学びの場面が必要である

【算数】

A「活用」

算数Aについては、 180° や 360° を基に分度器を用いて、 180° よりも大きい角の大きさを求める問題等、全国を上回る問題もあり、全体としても県平均を上回ったものの、全国平均は大きく下回った。課題としては、次のような点があげられる。

特に②については県平均を大きく下回っており、用語の定義等の意味理解に課題がある。

①示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現する

②円周率の意味について理解している

B「活用」

折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述する問題等、正答率が全国を上回る問題もあったが、全体としては全国や県を下回る正答率であった。

次のように、与えられた条件等の情報を整理、解釈し、判断するといった問題に課題がある。

- ③合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだす
- ④示された情報を解釈し、条件に合う時間を求める
- ⑤規則性を解釈し、それを基に条件に合うものを判断する

A「知識」からは、用語をその定義や意味から理解し、活用するために、新たなきまりや用語にふれる際に、豊かな算数的活動を通してその意味を実感することや、それらの定義や意味を活用した学びのつながりを意識することができるよう、指導を改善する必要があることがわかる。

③～⑤のつますきに対して、与えられた情報の中から必要なものを選んだり、きまりを見つめたりすることで、そのきまりをもとに問題を解決するような、課題解決のプロセスを大切に学習をさらに重視する必要がある。

<中学校>

【国語】

A「知識」

伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く問題や、話合いの話題や方向を捉えて的確に話す問題等、正答率が全国を上回る問題も見られたが、全体としては全国を下回る正答率であった。

課題としては次のような点があげられる。

- ①目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く

B「活用」

目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く問題等、正答率が全国を上回る問題もあったが、全体としては全国を下回る正答率であった。

課題としては、次のような点があげられる。

- ②文章の構成や展開について自分の考えをもつ

①②に共通して、文章をその構造に着目して読んだり書いたりすることに課題が見られた。これは小学校国語③の課題とも共通しており、小・中学校ともに、文章の内容を読み取るだけでなく、作者や筆者の視点から、構成や表現、叙述の意図、また、それにより生じる言葉の動きに着目するとともに、それらを評価しながら読む国語学習への転換が求められる。

【数学】

A「知識」

指数を含む正の数と負の数の計算問題等、正答率が全国を大きく上回る問題もあったが、全体としては全国を下回る正答率だった。

課題としては、次のような点があげられる。

- ①具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形する
- ②ひし形は、線対称な図形であり、点対称な図形でもあることを理解する
- ③長方形やひし形が平行四辺形の特別な形であることを理解する
- ④与えられた比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める
- ⑤一次関数の意味を理解する
- ⑥最頻値は、資料の中で最も多く出てくる値であることを理解する
- ⑦多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解する

B「活用」

正答率が全国を上回る問題はなく、全体的に全国を下回る正答率だった。

課題としては、次のような点があげられる。

- ⑧与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向をとらえる
- ⑨事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する
- ⑩証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだす
- ⑪付加された条件の下で、新たな事柄を見いだし、説明する

①～⑦に共通してみられる課題として、数学的用語の定義の数学的事象の意味理解に課題があることが分かった。これらは小学校とも共通の課題であるが、中学校ではその傾向はさらに顕著になっている。事象や用語をその定義や意味からとらえ、問解決場面に適切に活用するためにも、概念や関係性を図示しながら定義を説明するなどの数学的活動や、それらを説明し合う言語活動を通して、確実な意味理解ができるような学び方を工夫する必要がある。

また、⑧～⑪については、条件や情報を何らかの方法で整理することで、きまりを見出し、そのきまりを使って問題を解決する力に課題がみられた。学習に自力解決のための時間を確実に確保し、その時間に学んだことを生かすために問題解決の場面等を意図的・系統的に仕組んでいくことが必要である。

2 学校及び市教育委員会の取組

【学 校】

- 授業改善
 - ・中堅教諭による県外視察、及び計画訪問の実施による校内研修体制のより一層の充実
 - ・授業のユニバーサルデザイン化の推奨（以下の点を中心に）
 - ①指導主事の指導による、教材研究のより一層の焦点化
 - ②岡山型学習指導のスタンダードに基づく板書や授業の構造化
 - ③ICT等を活用した、情報の視覚化、共有化
 - ・中学校区単位での学力向上に向けた共通実践の推進
 - ・算数（数学）、英語等の教科における習熟の程度に応じた指導等、きめ細やかな指導の充実
- 補充学習
 - ・朝、昼、放課後等を有効に活用した補充学習の推進
- 学習習慣
 - ・授業と連動、家庭と連携し、家庭学習の内容充実と習慣化の推進

○土曜日授業等の実施

【教育委員会】

- 体制整備
 - ・ICT(電子黒板・デジタル教科書等)環境の整備
 - ・タブレットPCの整備
 - ・きめ細やかな指導を可能にする市費非常勤講師や教育支援員の配置
 - ・指導訪問等による学校の課題解決に向けた指導助言
- 補充学習
 - ・地域の教育力を生かし、公民館等で土曜日や長期休業中に補充学習を行う「備前まなび塾+」の実施
 - ・地域の教育力を生かし、授業支援や補充学習、環境整備、通学の見守り支援等を行う学校支援地域本部の実施
 - ・岡山大学・ベネッセコーポレーションと連携したタブレットPCのソフトウェアの活用
 - ・大学生を講師とした中学校3年生対象の受験対策講座（サタスタ）の開設

3 学力調査（教科に関する調査）

（1）平均正答率（「平均」については、国語A「知識」とB「活用」、算数・数学A「知識」とB「活用」の4つの検査を合計し、1検査あたりになおしたもの。）

小学校	3教科平均	国語		算数		理科
		知識	活用	知識	活用	
備前市	56.4	69	49	59	48	57
岡山県	59.4	71	54	62	50	60
全国	60.1	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
県比較	▲ 3.0	▲ 2.0	▲ 5.0	▲ 3.0	▲ 2.0	▲ 3.0
国比較	▲ 3.7	▲ 1.7	▲ 5.7	▲ 4.5	▲ 3.5	▲ 3.3

中学校	3教科平均	国語		数学		理科
		知識	活用	知識	活用	
備前市	61.2	74	59	64	44	65
岡山県	62.0	76	59	65	44	66
全国	63.1	76.1	61.2	66.1	46.1	66.1
県比較	▲ 0.8	▲ 2.0	0.0	▲ 1.0	0.0	▲ 1.0
国比較	▲ 1.9	▲ 2.1	▲ 2.2	▲ 2.1	▲ 2.1	▲ 1.1

- ・小学校は、全体的に全国及び岡山県の平均正答率を下回っている。
- ・中学校は国語【活用】と数学【活用】以外は全国及び岡山県の平均正答率を下回っている。

◆ **同一集団の平均正答率の経年変化**

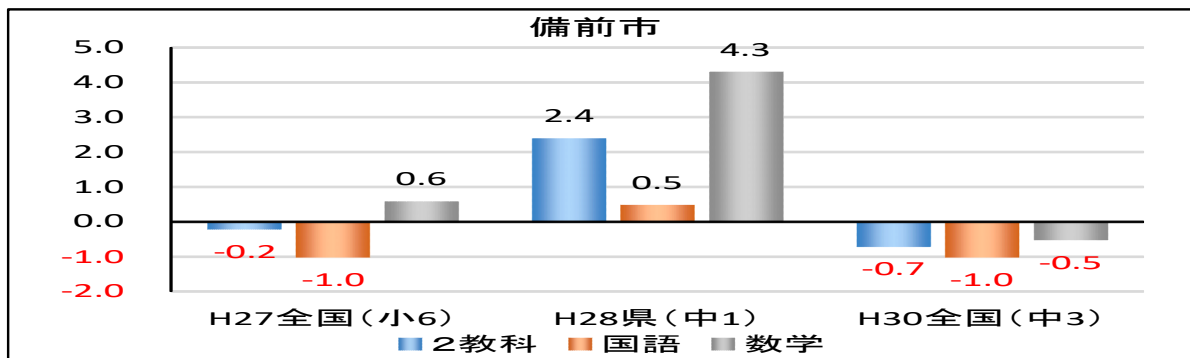
※平成30年度全国学力・学習状況調査の対象者（中学校3年生）は、平成27年度全国学力・学習状況調査の対象者（小学校6年生）、平成28年度岡山県学力・学習状況調査の対象者（中学校1年生）とほぼ同一集団である。

区分	3教科平均			国語			数学			理科		
	備前市	岡山県	比較	備前市	岡山県	比較	備前市	岡山県	比較	備前市	岡山県	比較
H27全国学力	63.4	62.7	0.7	66.3	66.9	▲ 0.6	62.1	60.0	2.1	60.4	59.9	0.5
H28県学力	68.9	66.5	2.4	65.4	64.9	0.5	72.4	68.1	4.3	60.4	59.9	0.5
H30全国学力	60.3	61.0	▲ 0.8	66.5	67.5	▲ 1.0	54.0	54.5	▲ 0.5	57.0	60.0	▲ 3.0
H27～H30比較			▲ 1.5			▲ 0.4			▲ 2.6			▲ 3.5

〔算出方法〕

- 3教科平均
 - ・全国学力（国語A+国語B+数学A+数学B+理科）÷5
 - ・岡山県学力（国語+数学+理科）÷3
- 国語
 - ・全国学力（国語A+国語B）÷2
 - ・県学力 国語の正答率をそのまま転記
- 数学
 - ・全国学力（数学A+数学B）÷2
 - ・県学力 数学の正答率をそのまま転記

★岡山県の平均正答率をベンチマークとした同一集団の変容を表したグラフ

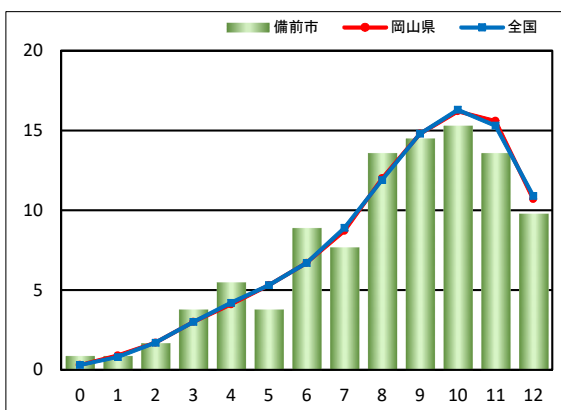


平成27年度全国学力・学習状況調査（小6）時点から、平成28年度岡山県学力・学習状況調査（中1）の時点へかけて、国語・数学（算数）ともに順調な改善が見られたものの、平成30年度全国学力・学習状況調査では再び落ち込んでいる。

(2) 正答数分布 [小中教科別] 縦軸：割合(%) 横軸：正答数(問)

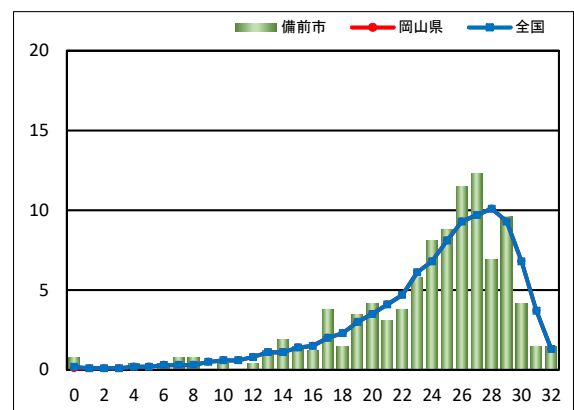
【小学校】

■ 国語A「知識」(12問出題)

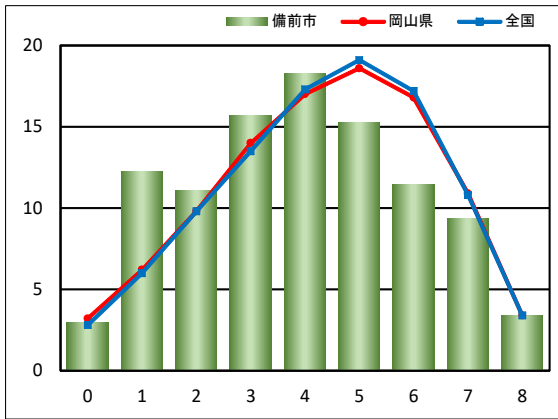


【中学校】

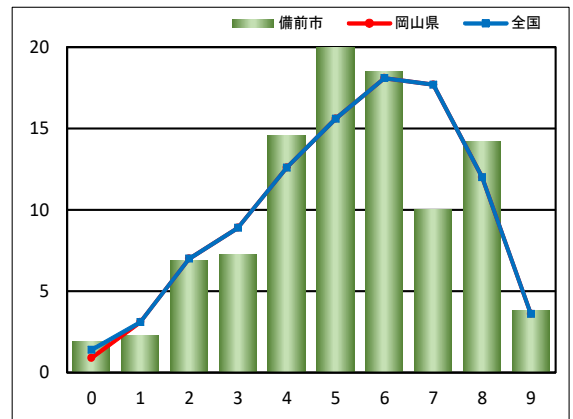
■ 国語A「知識」(32問出題)



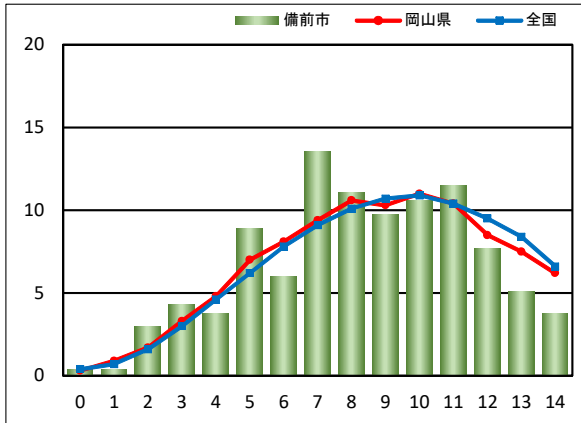
■国語B「活用」(8問出題)



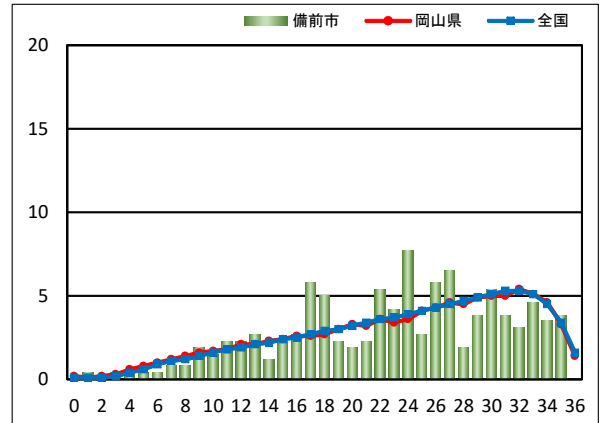
■国語B「活用」(9問出題)



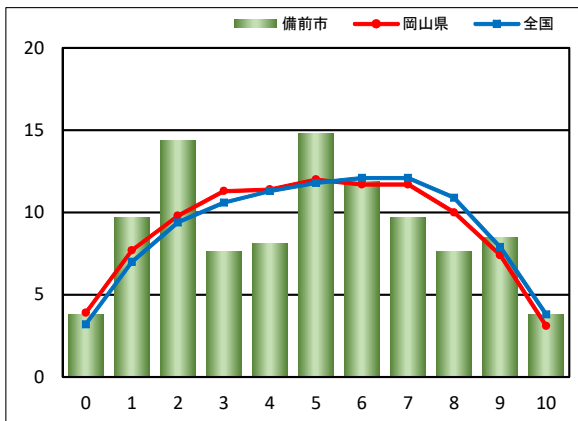
■算数A「知識」(14問出題)



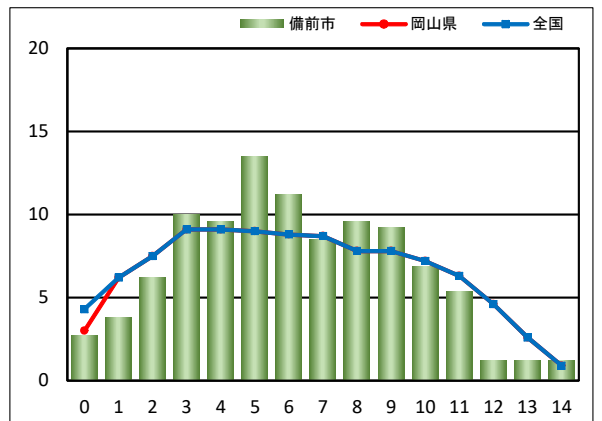
■数学A「知識」(36問出題)



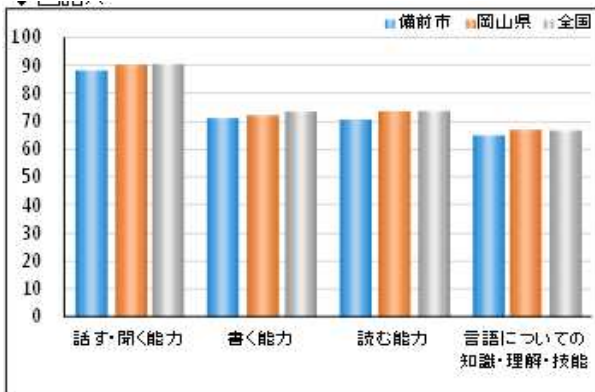
■算数B「活用」(10問出題)



■数学B「活用」(14問出題)

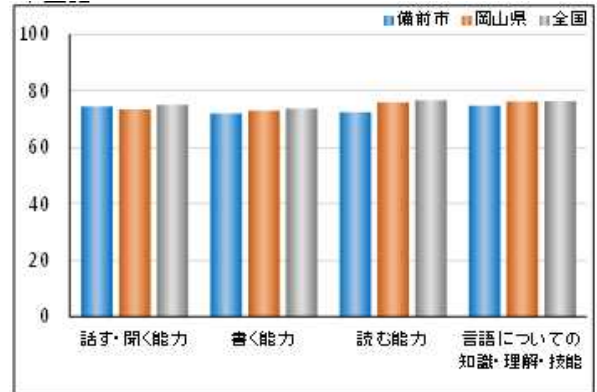


(3) 観点別平均正答率 縦軸：正答率(%) 横軸：観点
 【小学校】
 【国語A「知識」】



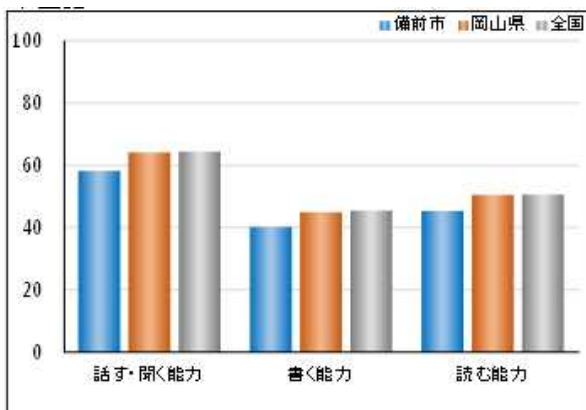
- 概ね全国、県並みであるが、「話す・聞く能力」「読む能力」が、県平均、全国平均を下回っている。

【中学校】
 【国語A「知識」】



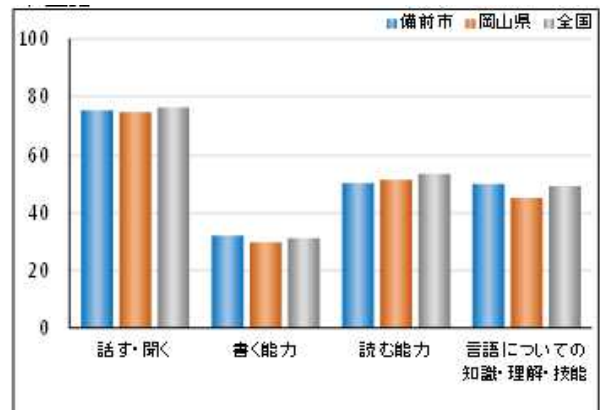
- 全ての観点で全国の正答率をやや下回っているが、正答率は70%を超えている。

【国語B「活用」】



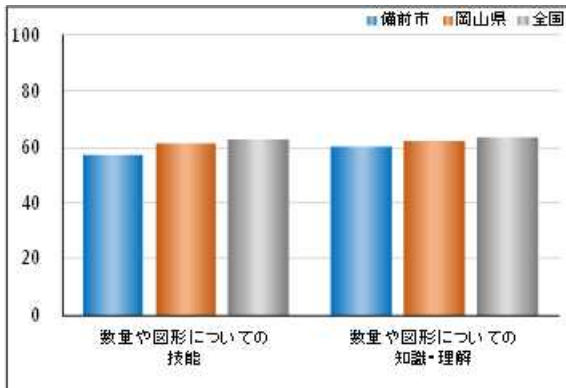
- 全ての観点で全国の正答率を下回っている。

【国語B「活用」】



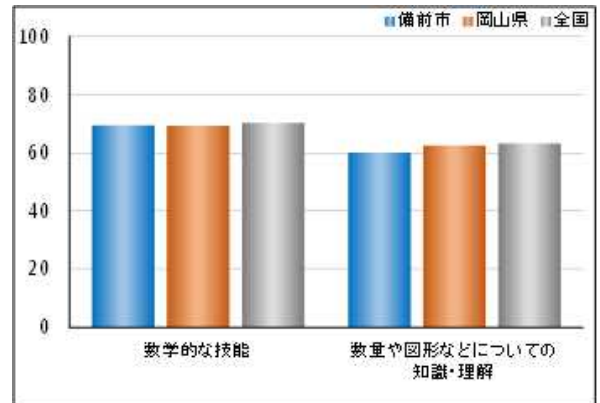
- 「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」は全国の正答率を上回っているが、「読む能力」「話す・聞く能力」については、全国平均をやや下回っている。

【算数A「知識」】



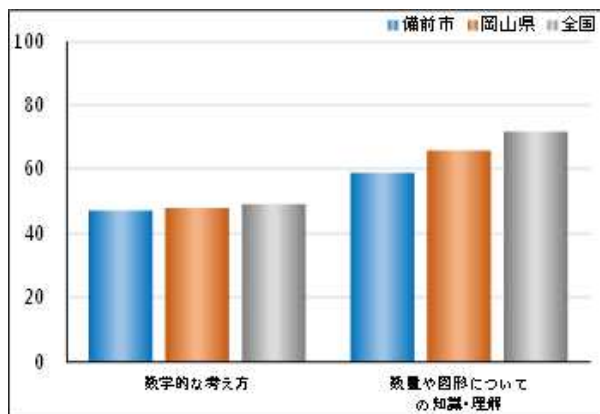
- いずれの観点も正答率が全国、県を下回っている。

【数学A「知識」】



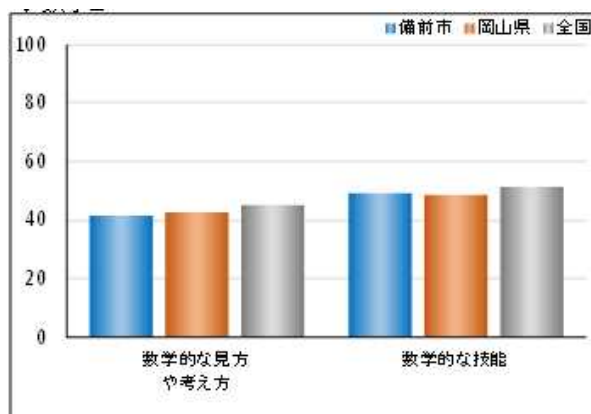
- いずれの観点も全国を下回っているが、「数学的な技能」については県を上回っている。

[算数B「活用」]



- いずれの観点も全国、県を下回っている。

[数学B「活用」]



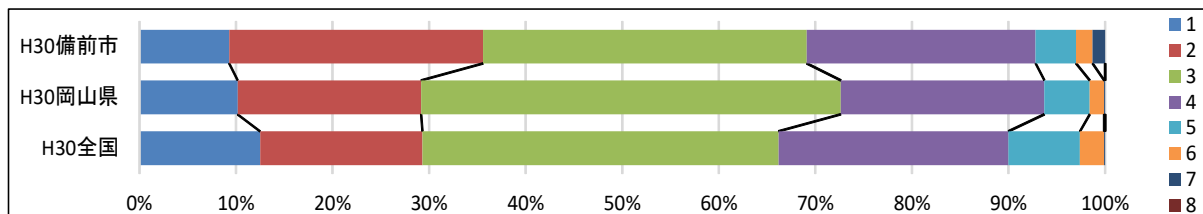
- いずれの観点も全国を下回っているが、「数学的な技能」については県を上回っている。

2 質問紙調査（主な項目のみ）

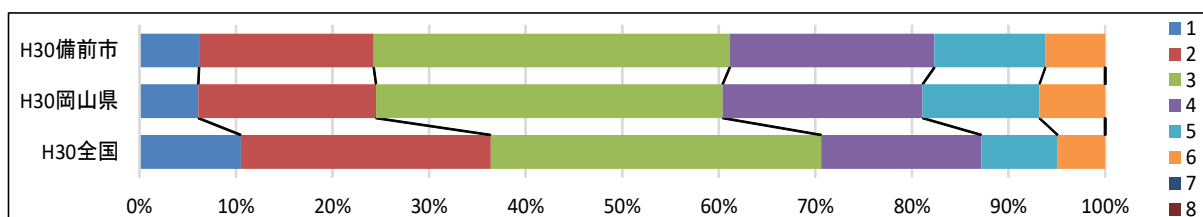
A 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾や家庭教師を含む。）

- 1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない
4 30分以上、1時間より少ない 5 30分より少ない 6 全くしない 7 その他 8 無回答

【小学生】



【中学生】

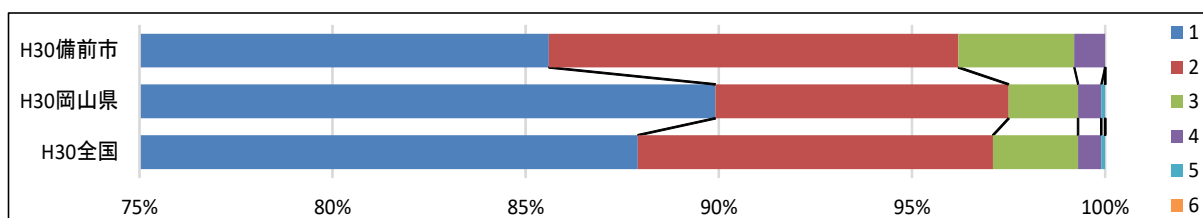


A 1時間以上家庭で勉強する割合は、小学校では、全国を約2.9ポイント上回っているが、中学校では、9.4ポイント下回っている。2時間以上家庭で勉強する割合は、小学校では、全国を約6.3ポイント上回っているが、中学校では、約12.1ポイント下回っている。

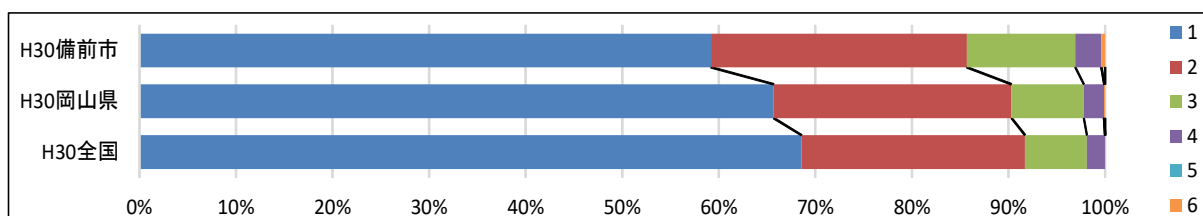
B 家で、学校の宿題をしていますか。

- 1 している 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない
5 その他 6 無回答

【小学生】



【中学生】

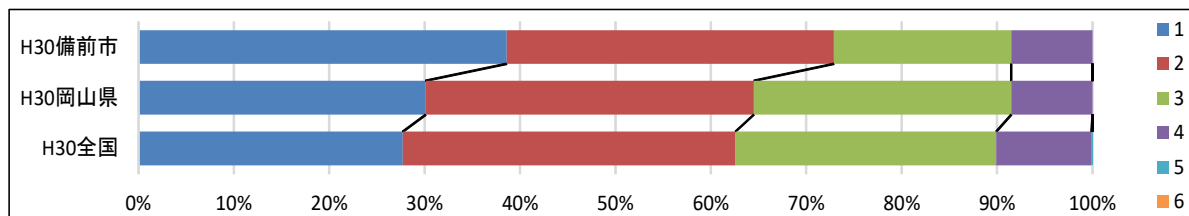


B 肯定群（「している」「どちらかといえば、している」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学校では、全国と同等であるが、中学校では、全国を12ポイント下回っている。

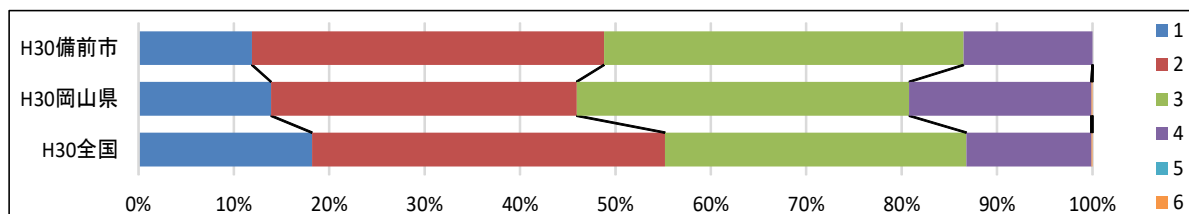
C 家で、学校の授業の予習・復習をしていますか(H27調査は予習／復習の平均)

- 1 している 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない
5 その他 6 無回答

【小学生】



【中学生】

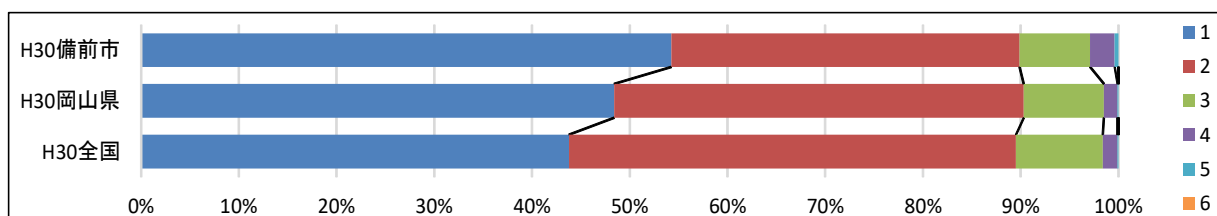


C 肯定群（「している」「どちらかといえば、している」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学校では、全国を10ポイント上回っているが、中学校では、全国を6ポイント下回っている。

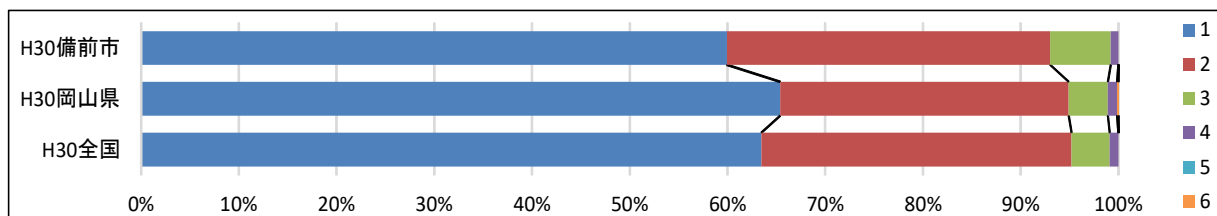
D 学校のきまり（規則）を守っていますか。

- 1 守っている 2 どちらかといえば、守っている 3 あまり守っていない 4 全く守っていない
5 その他 6 無回答

【小学生】



【中学生】

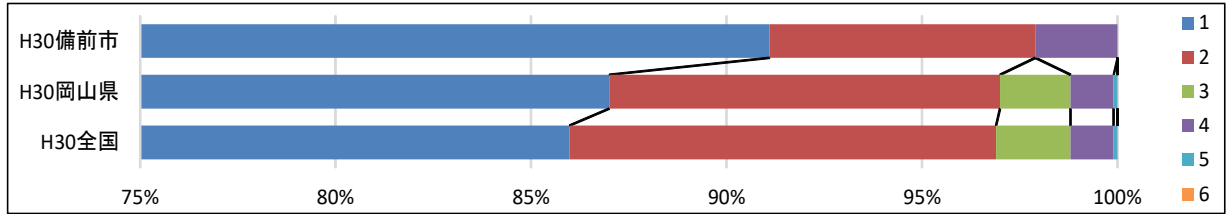


D 肯定群（「守っている」「どちらかといえば、守っている」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学校では、全国と同等であるが、中学校では約2ポイント下回っている。

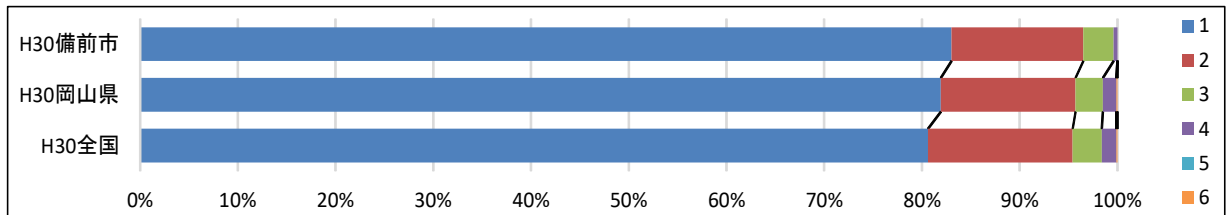
E いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

- 1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 あまりそう思わない 4 全そう思わない
5 その他 6 無回答

【小学生】



【中学生】

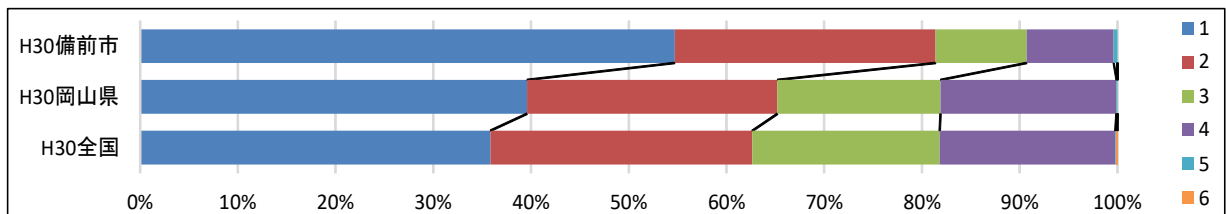


E 肯定群（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学校、中学校ともに全国を約1ポイント上回っている。

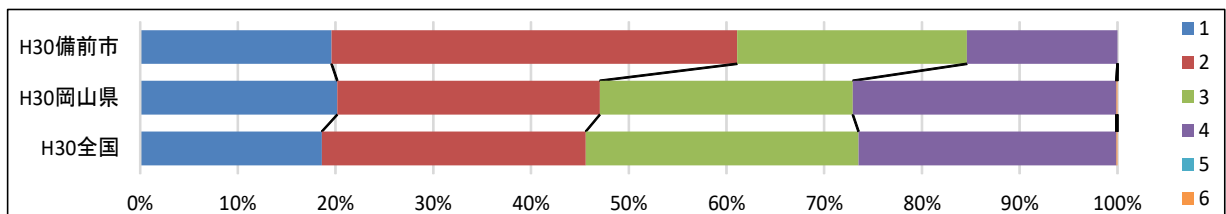
F 今すんでいる地域の行事に参加していますか。

- 1 している 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない
5 その他 6 無回答

【小学生】



【中学生】

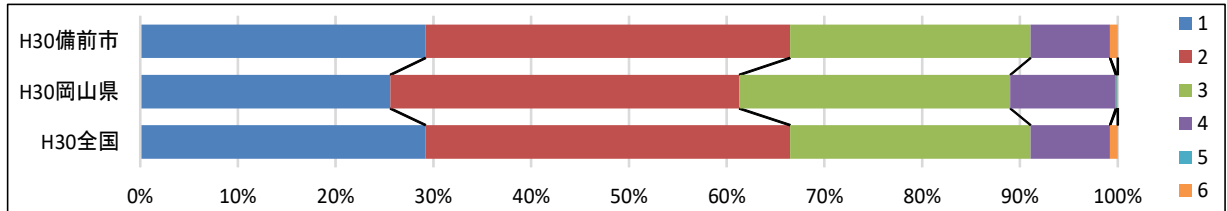


F 肯定群（「している」「どちらかといえば、している」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学校で18ポイント、中学校で15ポイントと全国を大きく上回っている。

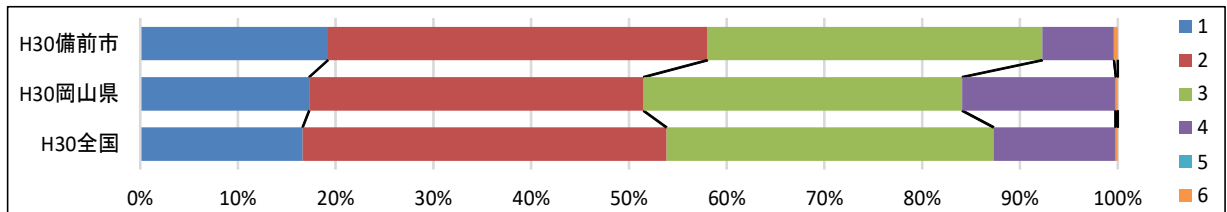
G 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。

- 1 ある 2 どちらかといえば、ある 3 あまりない
4 全くない 7 その他 8 無回答

【小学生】



【中学生】

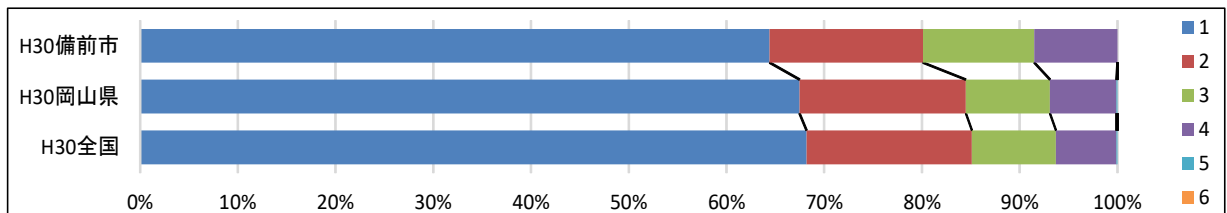


G 肯定群（「ある」「どちらかといえば、ある」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学校で18ポイント、中学校で4ポイントと全国を大きく上回っている。

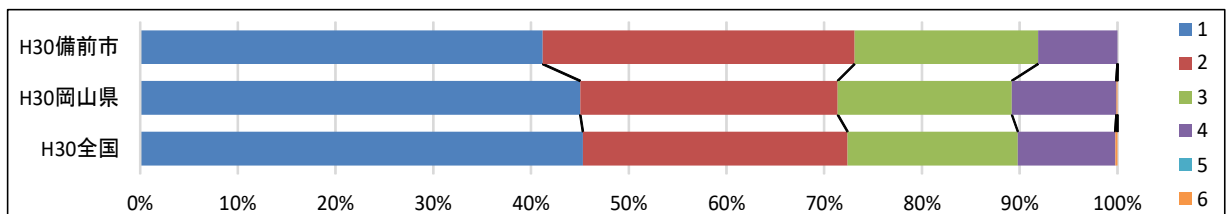
H 将来の夢や目標を持っていますか。

- 1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 あまりそう思わない 4 全そう思わない
5 その他 6 無回答

【小学生】



【中学生】

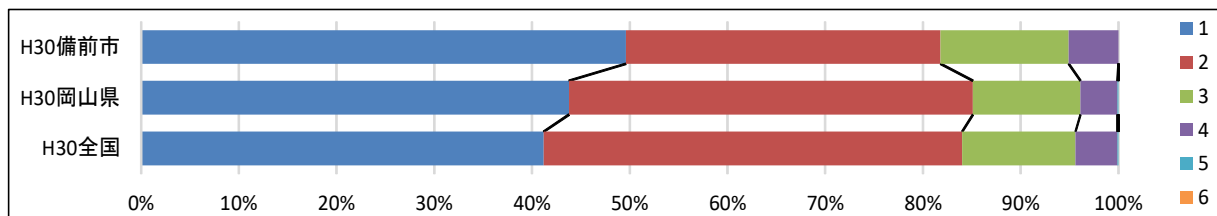


H 肯定群（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、中学校では全国並みであるが、小学校では5ポイント下回っている。

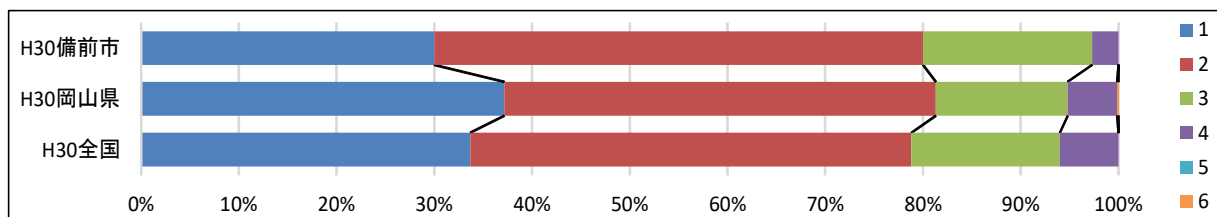
I 自分には、よいところがあると思いますか。

- 1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 あまりそう思わない 4 全そう思わない
5 その他 6 無回答

【小学生】



【中学生】

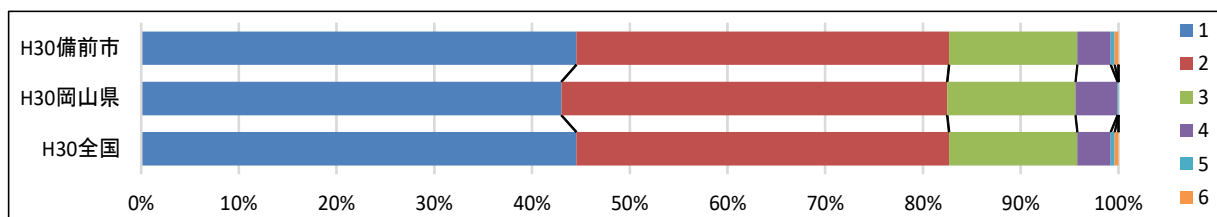


I 肯定群（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学校では2ポイント下回っているが、中学校では、全国を約1ポイント上回っている。

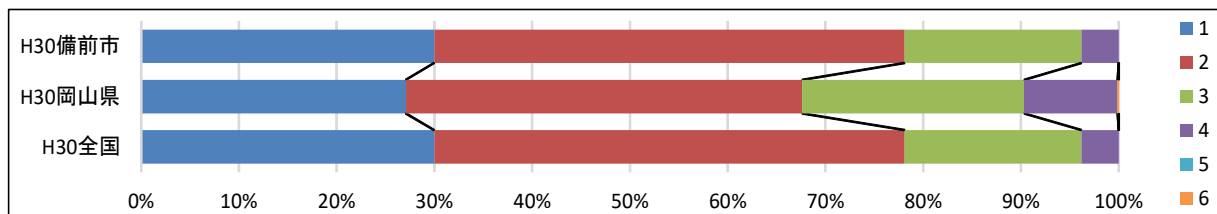
J 算数（数学）の授業の内容はよくわかりますか。

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない 5 その他 6 無回答

【小学生】



【中学生】

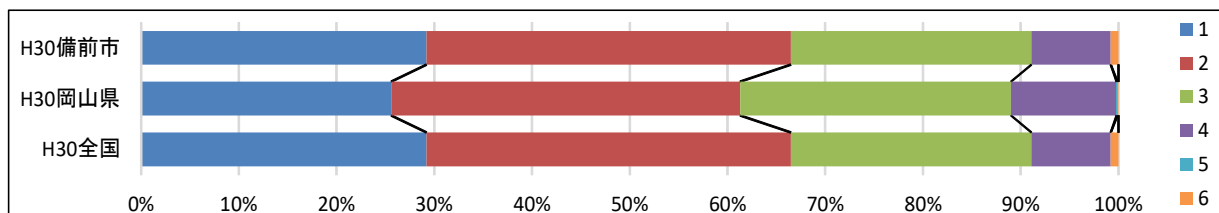


J 肯定群（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小・中学校ともに全国と同等であるが、県との比較では、中学校では10ポイント上回っている。

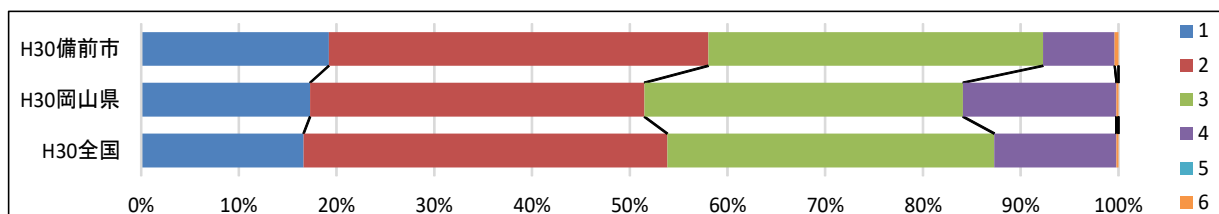
K 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない 5 その他 6 無回答

【小学生】



【中学生】

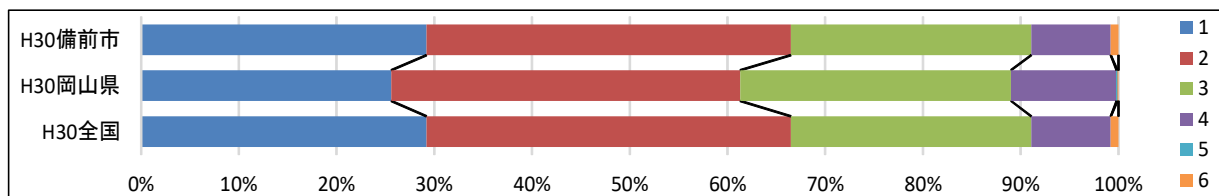


K 肯定群（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学校では全国を2ポイント程度下回るが、中学校では約5ポイント全国を上回っている。ただ、中学校を平成27年度調査における小6（現中3とほぼ同一集団）と比較すると約8ポイント下回った。

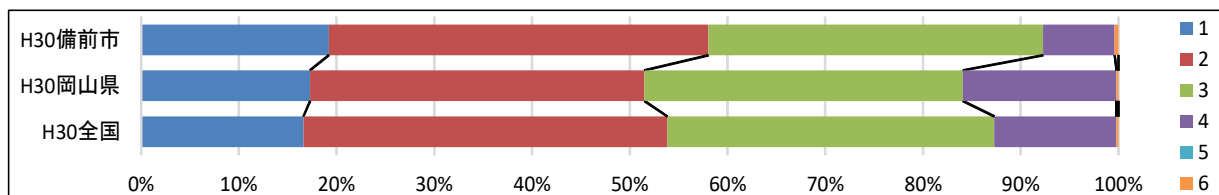
L 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない 5 その他 6 無回答

【小学生】



【中学生】



L 肯定群（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の計）の割合で備前市と全国を比較すると、小学校で全国を2ポイント下回り、中学校では約4ポイント全国を上回っている。ただ、中学校を平成27年度調査における小6（現中3とほぼ同一集団）と比較すると約10ポイント下回った。